

社会科(地理的分野)学習指導案

日 時
学 級
指導者

1. 単元名 「日本の姿」

2. 単元設定の理由

(1)めざす生徒の姿

地理的分野では、地理的事象やその空間的配置、背景や要員を踏まえ、その結びつきから人間の営みとのかかわりに着目して追究することを基本としている。本単元においては、「日本の位置や広がりにはどのような特色があるのか」という単元を貫く問いをもとに、世界の中での日本の領域の位置や島々の分布、都道府県の位置や分布、他国との領域をめぐる問題を、地理的な見方・考え方を適切に用いて理解・考察する力を養いたい。また、本単元においては、緯度と経度、時差といった位置や地理的關係をとらえる技能を用いて日本の世界の中での位置を多面的・多角的に考察させたい。

領域をめぐる問題は、日常生活からは身近に捉えられない生徒もおり、表面的な理解に留まる課題も見られる。よって本単元では、学習で得た知識をもとに日本の領域をめぐるどのような問題が存在し、私たちにどのような影響があるのかを、この問題の歴史的経緯や関わる人々の思いにも触れて、様々な立場から多面的・多角的に考察させていきたい。国家間の問題として未解決のまま残されている領域をめぐる問題について、平和的な手段による解決に向けて議論し、自分の考えをまとめていくことにより、この問題に対して自ら主体的に解決への行動を起こそうとする意欲と態度を身につけることをめざしたい。

(2)教材観と指導観

本単元では、前時までに習得している地図の見方や緯度・経度の意味、周りの大陸や国との位置関係を表す方法を活用して、世界の中での日本の位置や領域の特色を捉えさせることとする。緯度・経度を用いた絶対的位置と大陸・海洋・周辺の国々からの相対的位置での表し方のちがいや、経度を用いた時差の求め方等、既習内容を生かした学びの展開を意識づけるようにする。

また、本単元では海洋国家としての日本の領域の特色を地図や資料を用いて認識させるとともに、排他的経済水域や接続水域の意味を捉えさせることとする。近年、問題になっている日本の領域をめぐる周辺国との対立についても、その経緯や主張から対立の要因について、思考ツールを用いて情報を整理し認識を深めることとする。さらに北方領土問題を例に、これに関わる両国政府や住民たちのことを知り、日本の固有の領土の変化を求める立場を堅持しつつどのように平和的に解決していけばよいか、自らがどのように行動をするのかを、主体的に考えていく態度を養いたい。

3. 単元のねらいと評価規準

日本の世界の中での位置を確認するとともに、日本が海洋国家であるという認識のもとに我が国の領域の特色をおさえ、領域をめぐる問題について多面的・多角的に考察する中で、領土問題を正しく理解しその解決に向けて自ら行動する態度を養う。			
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知っている	世界の中での日本の位置の表し方や日本の領域の範囲、領域に関する問題を理解している。		
わかる	領海や排他的経済水域における海洋国家としての日本の特色を理解している。	日本の地域構成の特色を、周辺の海洋の広がりや国土を構成する島々の位置に着目して特徴を捉える。	日本の領域をめぐる問題について理解を深め、問題の解決に自ら取り組もうとしている。
つかえる	地球上の異なる位置での時刻のちがいに気づき、時刻を求めることができる。	日本の領域をめぐる問題を考察し、適切に論述している。	

4. 単元の指導計画と評価計画

時	学習活動	評価の観点		
		知	思	態
1	世界の中での日本の位置はどのように表せるか。 ○世界地図を用いて日本の位置を緯度・経度を使って表す絶対的位置と、大陸や海洋、周辺の国々から示す相対的位置で表す。	◎		
2	地球上の位置で時刻が異なるのはなぜか。 ○世界地図や写真・動画を用い、地球上の異なる位置で時刻に差がある理由をとらえるとともに、経度を活用して時差を求め、異なる位置の時刻を求める。	◎		
3	海に囲まれた日本の領域にはどのような特色があるのか。 ○領域を示す領土・領空・領海や日本の領域の範囲や特色を理解するとともに、排他的経済水域の持つ意味について考察する。		◎	
4 本 時	日本の領域をめぐる他の国とどうして問題になっているのだろうか。 ○日本の領域をめぐる他の国とどのような問題があるのかを理解し、北方領土を例としてどのような解決ができるのかを考える。	◎	◎	
5	日本の領域をめぐる問題をどのように解決すればいいか。 ○前時で考えたことをもとにグループで意見交流し、発表することで課題や実現性、今後の自らのできることについて考える。		◎	◎
6	都道府県と県庁所在地の位置にはどのような特色があるのか。 ○日本の地図から都道府県の地理的な特徴や県庁所在地の特徴について考察する。		◎	

単元構造図

＜今後の学習へのつながり＞

日本の世界の中での絶対的・相対的位置を捉える学習を生かし、世界の諸地域を学習する際に地理的な見方・考え方である空間的相互関係を認識することに生かす。また、領域をめぐる問題の考察での思考ツールを用いた多面的・多角的な考察、情報を整理して論述することを続け、探究と論述の力を育む。

単元のねらい

日本の世界の中での位置を確認するとともに、日本が海洋国家であるという認識のもとに我が国の領域の特色をおさえ、領域をめぐる問題について多面的・多角的に考察する中で、領土問題を正しく理解しその解決に向けて自ら行動する態度を養う。

単元の構想

参画・アウトプット
日本の世界の中での位置や領域の特色を理解した上で日本の領域をめぐる問題について仲間との意見交流を通じて認識を深め、自ら主体的に問題の解決のために行動することができる。

選択活用
緯度・経度や時差，地図を用いることで日本の世界における位置や特色を説明できるとともに，領域をめぐる問題について，日本や周辺の国々の主張，歴史的な経緯をもとに情報を整理し，自らの考えをまとめる。

知識理解
日本は世界の中で地理的にどのような位置にあるかを理解し，海洋国家としての領域や広大な排他的経済水域を有する特色があること，他国と領域をめぐる問題があり，日本の正当な主張があることがわかる。

「**単元を貫く問い**があるのか」
「日本の位置や広がりにはどのような特色があるのか」

これまでの学習

小5 社会科	中1 社会科(地理)	中1 社会科(歴史)
<p>「世界の中の日本」 世界における我が国の国土の位置，国土の構成，領土の範囲などを大まかに理解している。</p>	<p>「世界の姿」 大洋や大陸，様々な国の位置や国境の特徴，緯度や経度，地図の使い方を理解している。</p>	<p>「古代までの日本」 日本と周辺の国々にどのような交流があったのかを理解している。</p>

5. 本時の学習過程

(1) 本時の主題

「日本の領域をめぐって他の国とどうして問題になっているのだろうか。」

(2) 本時の目標

- ・日本の領域をめぐって周辺の国々との間にどのような問題があるのか、日本の主張や歴史的背景を理解する。
- ・北方領土問題をどのように解決したらよいか、日本とロシア連邦が平和的に相互尊重を基にして解決に前進できるよう自分の考えを深める。

	学習活動	教員の支援と配慮事項 ◆評価(方法と観点)
導入 5	1. 前時の学習から日本の領域を確認し、他国と問題になっている場所を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・領域に関して問題になっている場所と相手国、対立の内容について資料で簡単に確認させる。 ・尖閣諸島は領土問題ではないことを伝える。
日本の領域をめぐって他の国とどうして問題になっているのだろうか。		
展開 10	2. 北方領土の経緯について理解する。 ・北方領土に関して、江戸時代からの歴史的経緯を理解する。 ・北方領土は滋賀県とも関係があることに気づく。	<ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイントを使い、クイズ形式も用いて関心を高め理解を深められるように留意する。 ・近藤重蔵の墓が高島市にあること、近江商人が蝦夷地での交易に関わり北方領土と関係していたこと、北海道の海産物を取り上げ、遠い地域のことではなく自分たちとも関係があることに気づかせる。 <p>◆興味関心をもって授業に積極的に取り組み、北方領土問題の基本的な経緯を理解している。</p> <p style="text-align: center;">(ワークシート)【知識・技能】</p>
25	3. 北方領土の現状について理解する。 ・日本とロシアの首脳会談でどのような交渉が行われてきたかを知る。 ・日本の元島民とロシアの現島民の間での交流があることを知るとともに、日本の元島民の思いを知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・政府間でどんな話し合いが行われてきたかを理解させる。 ・ビザなし交流による島民どうしの交流が行われることの意義について考える。 ・動画で元島民の話を聞くことによって、島民たちの思いに触れ、問題の解決に向けて前向きに考えさせる。 <p>◆北方領土に関わる日本の元島民やロシアの住民の現状を理解している</p> <p style="text-align: center;">(ワークシート)【知識・技能】</p>
45	4. 北方領土問題をどのように解決したらよいか考える。 ・ここまでの学習を X チャートにまとめ、北方領土問題の解決に向けて自分の考えをまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・X チャートにまとめることで論点を整理し、どのように問題の解決につながられるか、解決すべき課題や疑問点は何かを考察させる。 <p style="text-align: center;">(ワークシート)【思考・判断・表現】</p>
まとめ 50	5. 北方領土問題の解決に向けた個人の考えをまとめ、次時にグループで交流し、解決策を発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ・次時に各グループ領土問題の解決案を提案させ、改めて領土問題を解決する意義をとらえさせる。 ・「私たちと北方領土」作文コンクールにつなげる。

6. 考察

(1) 指導後に見られた生徒の学びの状況

当初は領土問題はとて大きく遠い存在というような受け止め方が多かった生徒たちも、地元の滋賀県との関連や元島民の方の実際の話聞いて、身近に考えたり思いに寄り添う姿勢が見られた。Xチャートで自分の考えをまとめたり、グループ交流、全体交流でさらに具体性を高めていったり、疑問点を明らかにしていくことで、領土を簡単に手放してはいけないことや時間をかけても解決に向けて運動し続けることの意義について気づく生徒が見られた。特にロシアによるウクライナ侵攻という複雑な情勢を目の前にした中、生徒たちが自分たちなりに平和的な解決について考えられたことは有意義であった。

(2) 残された課題と今後の改善

課題としては、内容的に情報量が多く、様々な情報に戸惑う姿も見られたため、もう少し提示する情報を精選する必要があったように感じた。もう少し時間をかけてより北方領土問題を突き詰めて考えていけるような授業校生を考えていきたい。

また、今年度はロシアによるウクライナ侵攻がニュースでたびたび流されていたため、このことに引っ張られて平和的解決や領土返還に対し消極的になったり、表面的な理解や解決策に終始してしまう課題も見られた。ウクライナでの問題からも改めて対立をどのように平和的な交渉で解決していくのか、そこに向き合わせる必要性を感じた。

<p>★問い 北方領土問題の解決に向けて どのように進めたらよいか、私たちにできることは何か</p> <p>ロシアによる不穏な平和条約を結ぶために</p> <p>署名活動 平和条約の要件の理解</p> <p>ロシアと話し合う 政府を後押し ロシアとの交流 メリットとロシアに参加する 国民の理解</p> <p>北方領土返還運動 など積極的</p> <p>① 国民の正しい理解 → 政府を後押し → 署名活動など ② ロシア人との交流で認識を高める ③ 両国が話し合う → 日本とロシアの良好な関係築く ④ 交渉や交流などを支援、推進 ⑤ 他の国にも理解してもらう ⑥ 返還要求運動、北方領土のPR、イベント活動 ⑦ 日本の思いを伝える</p> <p>② まとめ ロシアとの交流や政府の活動や事業 Tロシアも日本も正しく理解して認識を深める。 そのことにより交渉がスムーズになる。</p>	<p>① 伝説 ・国民に正しい理解をしてもらう</p> <p>・ロシアと交流して認識を高める。</p> <p>・ロシアとの話し合い</p> <p>② メモ ・交渉は決まってる？ → 条約にロシアは含まれていない</p> <p>・メリットを両国が理解すると話し合いがスムーズになる。</p> <p>・もっと大きな問題になる可能性</p> <p>・北方領土は水産資源豊富</p> <p>③ 北方領土の日は何？ → 日本とロシアの認識の日 「日本の領土」として知られる</p> <p>④ 北方領土は何？ ロシアが何人住んでいる？ 157人</p> <p>⑤ 北方領土を採掘して日本人初の入居？ 最上領内</p>	<p>★問い 北方領土問題をどのように解決したらよいか。 ロシアの立場</p> <p>樺太と同じ大工 択捉島 → 日本最上 大工 千島列島 → 北方領土 (ロシア領)</p> <p>ロシアが交易目的 冬 -6.5℃ 夏 16℃ 海流 差は結構 ロシアも</p> <p>1785 最上領内が採掘 → ロシアへの配下になる</p> <p>1853 阿波-シーボルト (日露通商条約で確定) → 日本が開放 → 現地の様子 元島民の思い</p> <p>ロシアによる不法占拠 違反 領土 占拠 平和条約を結ぶために！ (国家・国民にとって重要な問題)</p> <p>3/7は北方領土の日</p> <p>① 北方領土の問題 どのようなことが問題？ ② 課題は？ 疑問に思ったことは？ 考えたことは？ ③ どのように解決したらいい？ 平和的交渉や 相互理解を深めよう ④ 領土を返す？ 領土を返す？</p> <p>日露共同宣言は有効？ → 有効。 ・併入しているロシアは、日本に返さなければどうなる？ → 人権・希望を尊重 ・なぜロシアはなぜ北方領土がほしいの？ → 返還された問題が解決される？ → 安い天然ガスが得られる → 日本の技術力、経済力をカリ、中国の影響をロシアと伊良くなる</p> <p>国民一人一人の認識を高める (正しく理解) 政府の意思を後押し 国民一人一人の認識を高める (正しく理解) 平和的交渉や 相互理解を深めよう 平和条約を結ぶため</p> <p>メリットをロシアが詳細にする</p>
---	--	--